

第21回全日本女子ユース(U-15)

サッカー選手権 準優勝

入谷南中学校 3年 ^{やまなか}山中 ^{かりん}花梨 さん
(ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15所属)

山中さんは、「レベルの高い環境でサッカーをやりたい」という思いで、小学6年生のときにジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-18(なでしこジャパンで活躍する菅澤優衣香選手や山根恵理奈選手の所属クラブ)のセレクションを受け、合格しました。

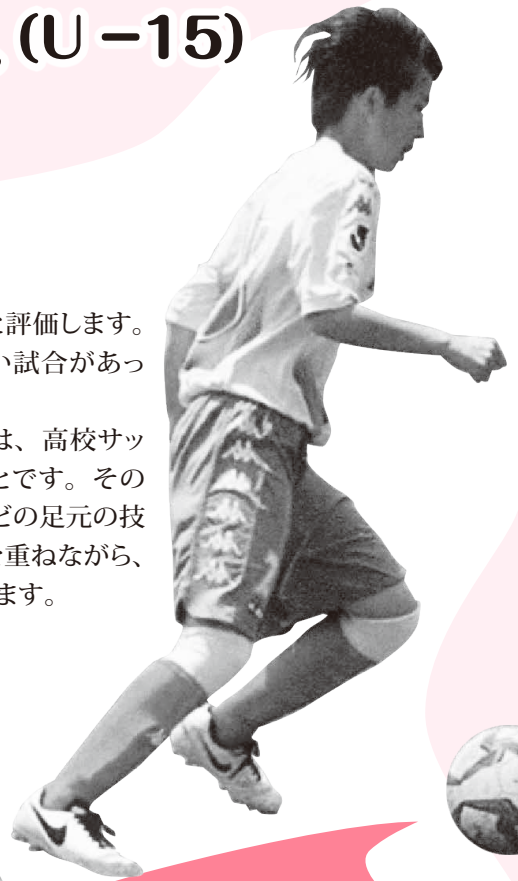
入団した後は、順風満帆とはいかず、けがで思うようなプレーができず悔しい日々を過ごしたり、監督から求められるプレーができず涙を流したりすることも。

しかし、クラブでの厳しい練習だけでなく、練習のない日も家族と自主練習に励むなど、3年間努力を重ねてきました。

そうした努力が実り、中学1・2年生のときにあと一步のところまで逃した念願の全国大会出場を果たしました。「初めての全国大会で緊張したが、この日のために練習してきたので、走り負けない強い気持ちで戦えた」と山中さん。池田祐樹監督は「スピードに乗ったまま、質の高いセンタリングを上げられるのは、チームで彼女だけ。彼女の武器が全国で通用し、何

回もチャンスメイクできていた」と評価します。一方で、山中さんは「出られない試合があったて悔しかった」とも話しました。

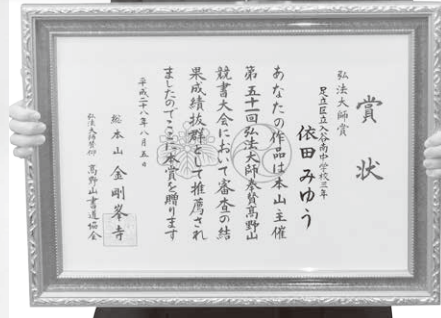
そんな山中さんの今後の目標は、高校サッカーで再び全国の舞台に立つことです。そのための課題は、パスやトラップなどの足元の技術を向上させること。日々、努力を重ねながら、次の目標に向かって動き出しています。



すごいね！ あだちの 子どもたち

VOL.18

幽暢 情叙



入谷南中学校 3年生
よだ 依田 みゆう さん

第51回 高野山競書大会 弘法大師賞 受賞

「まさか自分の作品が選ばれるとは思わなかった。」と依田さんは驚きました。

全国からの応募総数11万6706点の中から、見事1位にあたる弘法大師賞を取ったからです。

小学3年生から始めた書道ですが、上達した秘訣は、「小学生のころは、1文字1文字丁寧に書くことを意識した。今は、どう表現すればいいか考えて書いている。同じ字でも字のバランスや太さ、筆に含ませる墨の量などによって表情が変わる」と教えてくれました。

作品について書道教室の松下恵雪先生は、「今回、蘭亭序(依田さんが手本とした書道の古典)を臨書(※)してもらいましたが、優雅で気品のある文字の特徴を上手く表現できていました。そして、大きな賞を取ろうと思って書いたのではなく、自然体で楽しみながら書いたことが良かったのではないのでしょうか」と振り返ります。

依田さんは、「字をどう表現するか考えるのは大変だけど、自分のイメージした通りに書けたときは楽しい」と書道の魅力について話します。

書道のほかに、絵画、英語のスピーチ、ピアノも得意な依田さん。今後のさまざま場面での活躍にも注目です。

※臨書…手本とそっくり書くこと。

◆教育政策課 教育政策担当 ☎ 3880-5962

「あだち教育だより」にご意見・ご感想をお寄せください。

足立区教育委員会事務局 教育政策課 ☎ 3880-5962 E-mail: k-seisaku@city.adachi.tokyo.jp

「美しいまち」は「安全なまち」
ビューティフル・ウィンドウズ運動展開中



足立区

印刷番号 28-313